

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成25年9月17日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0873300701		
法人名	有限会社 グループホーム来夢		
事業所名	グループホーム 来夢	ユニット名	1番館
所在地	〒319-2255 茨城県常陸大宮市野中3050-1		
自己評価作成日	平成24年4月17日	評価結果 市町村受理日	平成25年9月13日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2011_022_kani=true&JigyosyoCd=0873300701-00&PrefCd=08&VersionCd=022
-----------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成24年6月18日	評価確定日	平成24年10月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<ul style="list-style-type: none">・職員のレベルに合わせた研修の参加や資格取得支援に取り組んでいる。・利用者の個人に合わせた生活リズムを大切に、本人の意向に沿った支援を行う事に力を入れている。・日常生活に混乱が少なく落ち着いた生活ができるよう食事、水分、排便、健康状態などの把握に力を入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>事業所は平屋建ての落ち着いた雰囲気の建物で、広いウッドデッキを設置し、どの居室からもデッキに出られる設計となっている。</p> <p>居間や廊下の天井は吹き抜けとなっており、明るい光が差し込んで木の香りとぬくもりが感じられる環境が利用者の穏やかな生活を支えている。</p> <p>代表者が看護師の資格を有していることを活かし、利用者に混乱がなく落ち着いた生活ができるよう食事、水分、排便、運動の4点に特に配慮をして支援をしている。</p> <p>代表者は職員の育成指導に力を注いでおり、毎月夜に外部から講師を招いて研修を実施するとともに、職員もそれに応えて前向きに取り組んでいる。</p> <p>管理者と職員は「その人がその人らしく、家庭的な環境の中で何時のときも、尊厳ある心を持ち共存した生活が過ごせるよう支援に努めます」との理念を記載したカードを常に携帯し、実践に努めている。</p>

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、朝の申し送り後に理念を唱和している。 職員は常に理念カードを持ち理念に沿ったケアを努めている。	「その人がその人らしく、家庭的な環境の中で何時のときも、尊厳ある心を持ち共存した生活が過ごせるよう支援に努めます」との理念を作成し、玄関や事務室に掲示している。 管理者と職員は朝の申し送り時に理念を唱和して意識付けをしながら共有するとともに、常に理念カードを携帯して実践に努めている。 事業所は平成14年の開設当初から地域住民との交流は当然のことと認識しており、特に理念に地域密着型サービスの意義を踏まえた文言を入れていない。	理念が地域密着型サービスの意義を踏まえた内容となるよう、代表者と職員で話し合っって作成に取り組んでいるので、早期に実現することを期待する。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩時は、近所の方と挨拶を交わしている。年1回、地域のふれあい広場に出店し地域と交流している。	自治会に加入しており、職員が公民館の清掃活動に参加するとともに、利用者と一緒に地域のゴミ拾いやイベントに参加している。 利用者は散歩や日用品の買い物時に近隣住民と挨拶を交わしたり、職員と一緒に回覧板を届けるなどで日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のケアマネ会、グループホーム連絡協議会の研修の開催に協力している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	管理者が中心となり、運営推進会議開催の通知をしているが、会議を開催するのに十分な参加人数を満たしていない。	運営推進会議は家族会の代表や市職員、地域包括支援センター職員、地区会長、民生委員、警察署職員、消防署職員などで開催し、事業所の実情や活動報告をするとともに、運営上の問題や外部評価の結果などを話し合っている。 出席者が少なく、2ヶ月に1回開催するまでには至っていないため、年間を通した会議の開催日程を決めたり、議事内容や通知方法、委員の検討をしている。 運営推進会議に市職員もしくは地域包括支援センター職員の毎回の参加を得るまでには至っていない。	運営推進会議は外部の人々の目を通して事業所の取り組み内容や具体的な改善課題を話し合ったり、地域の理解と支援を得るための貴重な機会であるため、確実に出席できる委員を検討するとともに、2ヶ月に1回開催できるよう取り組むことを期待する。 福祉サービス向上のため、全ての運営推進会議において市職員もしくは地域包括支援センター職員が参加することが望まれる。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村へ訪問し担当者の方に事業所の活動内容、空き状況などを伝え協力関係作りに取り組んでいる。	代表者が市に出向いて事業所の状況を伝えるとともに、運営上の困りごとなどを市担当者に相談している。 代表者は市内のグループホーム連絡協議会の会長や認知症サポーター養成研修会の講師を務め、市の福祉行政に貢献するなど、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。	管理者と職員は身体拘束について研修会やミーティングなどで話し合い、全職員が身体拘束における弊害を理解し、身体拘束をしないケアに努めている。 事務室に身体拘束廃止についてのポスターを掲示して職員の啓蒙を図っている。 門扉や玄関、ガラス戸は施錠せず、職員は利用者が外へ出て行く気配を感じた時にはさりげなく付き添うなど、利用者の安全を確保しつつ自由な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングなどで虐待について話し合いをし虐待が発生しないよう努力している。	/	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	一部の職員は、成年後見人制度の理解している。	/	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には読み合わせをすると共に説明を行っている。入居されたあと不安や疑問が生じた時には随時説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の言葉などその思いをくみとり運営に活かせるようとりくんでいる。家族会で出された意見などミーティングで取り上げ、反映する様に取り組んでいる。	重要事項説明書に事業所と第三者機関の苦情相談受付窓口を明記している。 玄関に意見箱を設置するとともに、家族等の来訪時や家族会開催時に意見等を出せる機会を設けている。 食事に関する要望など、利用者や家族等から出た意見等をミーティングで話し合い、運営に反映させるよう取り組んでいる。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体ミーティングの際、職員から意見・要望を聞く。事業所ミーティングでは利用者の受け入れについて話し合いをもっている。	代表者は月1回同一法人の2事業所が合同で開催する全体ミーティングや週1回の事業所ミーティング、年2回の職員との個別面談時に職員の意見や要望、提案を聴く機会を設けている。 勤務体制や個人研修についての要望、夏祭り実施の提案など、職員から出た意見等は都度話し合って運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員の労働条件など把握しており、職場環境に取り組んでいる。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のレベルアップの為に各自に合った研修参加に積極的に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	市内の連絡協議会があり、情報交換、勉強会を行い交流を深めてサービスの向上に努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、本人と面談し本人の身体状況や思いを聴き今後の関係に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族から家族状況、困り事、苦勞を聴き取り、今後に向けて信頼関係が築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の思いや状況に応じた支援に努力している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と共に生活を支え合うという気持ちを持って利用者との関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時間、宿泊は自由に出来る事を家族へ伝え家族との関係を大切にしたい関係が続く様に努力している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人との関係が途切れないよう面会時に協力をお願いしている。	利用者の親戚や知人、昔の職場の仲間、恩師などが来訪している。 職員は家族等や友人からの電話の取り次ぎをしたり、礼状などの手紙を出せるよう支援するとともに、利用者が家族等の協力を得て盆や正月の帰宅、墓参り、行きつけの理・美容院等に出かけられるよう準備をするなど、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	手作業などの活動を通じて利用者同士の関係がうまく発展する様に支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所や入院の際、利用者が困惑しない様サマリーを提供したり電話での相談にも応じている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者の希望を普段の会話の中から意向をくみとるよう努めている。困難な時には家族から生活歴を聴きそれらの情報を踏まえて本人の表情やしぐさ思いをくみとる努力をしている。	職員はアセスメントにより利用者の生活歴や思いを把握するとともに、さりげなく話しかけて希望や意向を聴き、利用者の意向にそった支援に努めている。思いを表わせない利用者には家族等から話を聴いたり、支援の際の話し方や表情、しぐさなどから思いを汲み取るよう努め、利用者本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の情報、面会時に家族から情報を頂き記録に残している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	関わりの中で出来る事、困り事等把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	お手紙、面会時、家族に日頃の様子や困り事を伝え、利用者、家族の要望をもとに計画作成している。モニタリング、アセスメントを行い見直ししている。	介護計画は利用者や家族等の意向や課題を把握して計画作成担当者を中心に職員で話し合って作成し、家族等の来訪時に説明して確認を得ている。3ヶ月毎にモニタリングを行って介護計画を見直しているが、毎月モニタリングを行うまでには至っていない。利用者や家族等の要望、心身の状態が変化した場合には、現状に即した介護計画に見直ししている。	モニタリングは毎月実施することを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の日々の様子を記録し、職員間でケアの共有をするためにケアプランを介護支援に入れている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の状況に応じて通院や送迎など出来る限り柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の支援を受けている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病院については、協力病院以外に今までかかっていた地域の主治医との連携を図っている。 家族が希望されているかかりつけ医に必要な応じて受診支援を行っている。	利用者や家族等が希望するかかりつけ医を担当医としており、家族等と協力してかかりつけ医や専門医への受診に付き添うなどの支援をするとともに、受診結果を記録して全職員で共有している。 月1回協力医療機関の医師による訪問診療を支援するとともに、複数の医療機関と連携が図られ、緊急時には24時間対応ができる体制となっている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師に報告相談しながら健康管理や適切な受診の支援を行っている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	サマリーを提供することで心身のダメージを軽減出来るよう取り組んでいる。病院関係者、家族と早期退院に向けて連携を図っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の際、説明同意書の提示を行っている。 終末期の利用者の家族に対しては、面会時等により意見を聴き出来る事を説明し看護師、医師と連携しながら支援に繋げている。	重度化した場合や終末期のあり方について事業所の対応指針を作成し、契約時に利用者や家族等に説明して同意を得ている。 利用者の終末期にあたり、利用者や家族等の意向を踏まえて医師や職員が連携を取りながら支援する体制を整えており、これまでに4例の看取りを経験している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救命講習の受講している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回全職員が参加し避難訓練を実施している。 災害時用、水や食料品など備蓄品を確保している。	消防署立会いのもと夜間想定を含む避難訓練を年2回実施し、反省点などを話し合って議事録を作成するとともに、定期的に設備点検をしている。 避難訓練に近隣住民の参加を得るまでには至っていないため、避難訓練のチラシを配布したり、地域の集まりや運営推進会議において呼びかけることを計画している。 緊急連絡網を掲示するとともに、災害に備えて食糧や飲料水、おむつ、毛布などを備蓄している。	避難訓練に近隣住民の参加を得て事業所の災害対策への理解を求めるなど、協力体制を築くことを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念の言葉を心にとめ、利用者の尊厳を大切に支援している。	職員は利用者一人ひとりを人生の先輩として尊重し、トイレ介助や入浴時には誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に努めている。 個人情報に関する書類は事務室の書棚に保管し、取り扱いには十分注意をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事など、嗜好物の提供や、選択の場面作りを行い、自己決定の支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人に合ったリズムを大切に出来る限り本人のペースに沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個人に合わせて美容院に出掛け自己決定出来る様にしている。 意思表示の難しい方は表情やしぐさで洋服の選択を決めるよう支援している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に作る楽しみ、食べる楽しみを味わう事を考え関わっている。	職員は利用者一人ひとりの嗜好や状態に配慮しながら献立を作成するとともに、利用者と同じテーブルに着き、会話をしながら楽しく食事ができるように支援をしている。 利用者は職員の支援を得ながら野菜の下ごしらえやテーブル拭き、下膳など、それぞれの能力に応じた役割を担っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の水分、食事量など把握しその都度水分、食事の摂取量を記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の力に応じて見守り、介助行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターン、行動を把握、理解し誘導する事で失敗を減らしトイレでの排泄が出来るよう支援している。	職員は排泄チェック表により利用者一人ひとりの排泄パターンを把握するとともに、時間を見計らって誘導したり、利用者の様子から声かけをすることで、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。 夜間は必要に応じて居室にポータブルトイレを置いて失敗のないようにするとともに、リハビリパンツやパッドの利用により、できるだけおむつを使用しないで済むよう支援している。 トイレは便器の両側に手すりを設置し、利用者が使い易いように整備している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食材や牛乳、起床時の冷水などを取り入れ腹部マッサージなどによりスムーズな排便が出来る様に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	本人の希望に沿った支援を努力している。入浴に興味を持たない利用者には、タイミング、興味のわく対応声掛けを行っている（入浴剤、色、香）	入浴日や回数を決めずに利用者の希望にそった支援ができるよう体制を整えている。季節毎に薔薇の花弁や菖蒲湯、柚子湯などで入浴が楽しみなものになるよう工夫するとともに、入浴を拒む利用者には、声かけの仕方や誘導のタイミングを変えて無理のないよう支援している、	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調、表情を考慮して休息の声掛けをし休息出来るよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人用処方箋ファイルにて全職員がわかるようにしてある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の力を発揮出来る様に、食事作り、掃除、行事の司会等の場面作りを行っている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	重度の利用者については、体調面を把握しながらデッキにでて外気にふれる機会を作っている。近隣のスーパーに買い物へ出かけている。	職員は利用者と一緒に季節毎に初詣や花見、林檎狩りなどに出かけ、季節を体感できるように努めるとともに、重度の利用者には体調に配慮しながらデッキで外気浴を楽しめるよう支援している。天気の良い日には散歩や近くのスーパーへ買い物に出かけるほか、家族等の協力を得て墓参りや理・美容院に出かけられるように支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の希望により立て替え払いにて対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に沿って電話しやすい環境作りを行い支援している		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快な音、匂いに配慮し、季節の花を飾り環境に配慮している。	居間や廊下の天井が吹き抜けとなっているため明るく、廊下にはソファを置いて利用者同士がおしゃべりをしながら居心地よく過ごせるよう配慮している。利用者が寛いで過ごせるよう居間の一角に畳敷きのスペースを設けるとともに、玄関や居間に季節の花を生け、季節感のある環境づくりをしている。居間や食堂、浴室の脱衣室は床暖房となっているため過ごしやすく、利用者は居間やそれぞれの居室からウッドデッキに出てバーベキューをしたり、外気浴をしてゆったりと穏やかな生活を楽しんでいる。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人で過ごしたり、気の合った利用者同士で会話をしたり、くつろげるスペース作りを行っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や使い慣れたものを部屋に置くことで心地よく過ごせる様に家族と相談している。	居室にはベッドのほか洗面台が備え付けられており、利用者の自立した生活を支援している。 利用者は家族等と話し合いながら馴染みの家具やテレビ、ラジカセ、カレンダー、家族等の写真、ぬいぐるみなどを持ち込み、安心して居心地よく過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には利用者の表札を取り付け、浴室、トイレ等は分かり易く目印をつけ環境整備に努めている。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある <input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまにある <input type="radio"/> 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2, 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3, 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまに <input type="checkbox"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="checkbox"/> 1, 大いに増えている <input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 3, あまり増えていない <input type="checkbox"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム 来夢

作成日 平成24年12月28日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	1	理念に地域密着型サービスの意義を踏まえた文言が入っていない。	理念の中に具体的な文言を入れる。	全体ミーティングの際、代表者と職員とで理念の見直しをする。	6か月
2	2	運営推進会議の出席者が少なく、2か月に1回の開催には至っていない。	2か月に1回の運営推進会議の開催の実施。	1年間を通し会議開催日程を決める。	2か月
3	13	避難訓練に近隣住民が参加されていない。	地域との協力体制を築く。	地域の集会の際に呼びかけや近隣住民などにチラシを配布する。	6か月
4	10	毎月モニタリングが実施されていない。	毎月モニタリングを実施する。	日程を決め、モニタリングを実施する。	1か月
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。